

【加納久宜知事種子島屋久島巡察日記】

やまもとひでお
山本秀雄

この資料は明治二十七年、鹿児島県第六代加納知事が県政に資するため、県下の民情を視察した折の「巡察日記」から、屋久島関係を抜粋、紹介するものである。残念に思うのは、その折、熊毛地方の天候不良で、海の舟も陸の馬も知事に利便を与えられなかったようである。当時、鹿児島・種子島・屋久島間に三角航路が開設されたばかりで、港湾は整備されてなく、汽船も大川丸（百七十三トン）が一隻就航したばかりの頃で、貨客の乗降も宮之浦川口の中洲が汽船とハシケで結ばれていた。従って知事の巡察も海上交通問題を糸口に教育・殖産興業（お茶、柑橘など）、郡制（熊毛郡・馭謨郡合併）等々、盛り沢山で課題が多く、専門職を加え巡廻表に組まれたが、天には勝て

ず、幾人かに居残り調査をさせている。しかし生活にかかわる緊急問題には直ちに対策を構じ、航海安全に永田灯台建設、種子・屋久五カ村共同出資の三島汽船会社設立、三島間の海底電信の敷設など、巡察数年後にその実績は現われている。巡察日記末尾に島内巡回予定地での講演会資料が数枚添付され、薄い罫紙に数字を入れて問題点が示されているが、島の行政に光を当てるべく、島民の多くの声を聞かんと用意されたことも察せられる。ここには添付資料は割愛いたします。なお本誌掲載にあたって、読みやすくするため、原文にない句読点、濁点、ふりがなを付しました。

種子島巡航記

（明治二十七年）

十月二十七日 土曜 天気 寅

此日早起、本村ヲ距ル東ノ方四里、安城村ニ趣キ、尋常小学校ヲ巡視ス。本校ハ一二部落ノ保護スル所ナレドモ、校宇堅牢ニシテ、三区ノ教場、俱ニ充分ノ余裕アリ。生徒ノ数

一百十余名、女兒ノ出席ハ男児ノ出席ヨリモ多シ。就学ノ数、男女同一ニ居リ。教場ノ秩序整然、見ルベキアリ。明治十八年、米国ノ商船本嶋ノ海岸ニ於テ難破シ、海員ノ中、生存者十有二名ヲ救護シテ其筋ニ護送シ、以テ本国ニ還ラシメタル厚誼ヲ徳トシ、時ノ大統領ハ、之ヲ国会ニ下問シテ其協賛ヲ得、米金五千弗ヲ島民ニ送付シテ以テ当年ノ勞ニ酬ヒタリ。乃チ、此金額

ヲ二分シテ一半ヲ安城村ニ交付アリ。村民、之ヲ以テ公債証書ヲ購ヒ、挾テ以テ基本財産トシ、終ニ本校ヲ構築シ、該写真一葉ニ謝恩ノ書状ヲ添へ、前年、閣龍大博覧会ニ出品シタリト云フ。是ヲ以テ、村民ハ此厚誼ヲ遺忘セザランガ為メ、校地ニ記念碑ヲ建テテ當時ノ事實ヲ勒シ、本校ノ設置セラレタル所以ヲ叙シタリ。故ニ、村民ガ教育ニ注意シテ他ノ学校ニ劣ラザラント勤ムルモノ、決シテ偶然

二非ルナリ。

本校二午餉シテ、午後二時半、西ノ表二帰ル。一浴匆匆、学校二趣キ、生徒ノ父兄保護者等ノ為メ教育上ノ談話ヲ為シ、夫ヨリ旧島主種子島守時氏ノ招請ニ応ズ。余ガ一行、亦与カル。同家ノ秘蔵セル、葡萄酒人ヨリ祖先時克ガ購求シタル鳥銃ノ模造ヲ一覽ス。真物ハ現ニ東京遊就館ニ在リ。此模造品モ、今ヲ距ル三百余年、本浦ノ鍛工ハ板金兵衛尉清定ヲシテ製造セシメタリト云フ。銃ハ所謂火繩筒ニシテ、撃金ノ機関ガ外面ニ組成セラレタルヲ異ナリトスルノミ。而シテ当地鉄砲鍛冶ナルモノ十数家アリシモ、物換リ星移リテ、今ハ則チ鉄鍛冶トナリテ、種鉄ノ名、是ヨリ頭ハル。包丁ノ類、亦、皆銳利ナリト云フ。又、同家ノ珍蔵セル、宋人劉章念ノ画ケル楊貴妃出浴ノ図ヲ巻軸トナシタルヲ見ル。筆力精緻、殆ンド真ニ逼ル。ソノ画賛、何レモ当年名家ノ達筆、余ノ無風流ト雖モ、亦、能ク天下ノ絶品タルヲ認ム。聞説ラク、明ノ滅ブルニ当リ王家ノ秘蔵ニ係ルモノ人々相携ヘテ難ヲ琉球ニ避ク。蓋シ本品、亦、其一ニシテ種子嶋家ニ落チタルモノナラント云フ。而シテ同家ノ琉球ニ因縁アリシ所以ハ、甘藷ノ種ヲ彼ノ国ニ贈リ、叛メテ民間ノ食料ト為スノ鼻祖タリシヨリ、彼我ノ交通特ニ親密ナリシトナリ。

右一覽ノ後、酒飯ノ饗応に預カル。給仕ノ少女、進退周旋、一二小笠原流ノ礼式ニ適ヒ優美ノ風、惟リ挿花詠歌ノ類ノミナラザルニ依リテ、益々本嶋歴史上由來スル所遠キヲ懐ヒ、竊カニ今昔ノ感ニ堪ヘザルモノアリキ。

此日、本嶋ノ奇獸タル牛馬ト稱スル動物二頭ヲ一覽ス。年、孰レモ三才。全身ハ総テ栗毛ニシテ、縮毛輪紋ヲ為セルコト、宛然画ケル唐獅子ノ如ク、面貌ト四足ハ馬タルヲ証スルモ、耳辺ヨリ鬣ナク、尻尾ハ垂ルルコト長サ一尺五寸ナルモ、其形状ハ洋犬ノ尾ニ等シク、腹背ノ蠅ヲ掃ハントシテ上下左右ニ振廻スモ、其短キガ為メ頗ル困却セル有様ナリ。而シテ此動物ハ年齒三十二達スルモ強健ニシテ渝ルコトナク、性極メテ柔順ニシテ決シテ何物ニモ驚クコトナク、負担ノ力、馬ヨリモ強ク、疾病ノ為メニ夭折スルコトナキハ牛ニ相似タル所アリ。是、蓋、牛馬ト稱スル所以ナルベシ。丈ハ二頭共、四尺二三寸ニシテ、古來、形状ニ変化ヲ來サズト云フ。朝鮮征伐ノ時、嶋津氏之ヲ戦利品トシテ以テ還リ、種子嶋家ニ付托ス。爾來、本嶋ニ飼養シタリシガ、之ガ使用未ダ全嶋ニ普キニ至ラズシテ、維新後、漸ク減少シテ殆ンド全ク亡ビントスルニ至リ、牡ヲ以テ牝馬ニ交尾セシメテ纒ニ系統ヲ維持シツツアリト云フ。余ガ見ル所ノモノハ則チ第二回雜種ニシテ、更ニ雜種ト

純粹トヲ交尾セシメバ、殆ンド旧態ニ復スベシトナリ。

十月二十八日 日曜 曇 卯

此日ハ旅宿ニ於テ終日來客二接シ、少間、鉛筆ヲ呵シテ巡回日誌ヲ草ス。昨夜、又ハ今朝、來着スベキ汽船未ダ到ラズ、本日ノ滞在頗ル無益ナルガ如キモ、余ガ一身ニ於テハ、数日ノ疲労ヲ癒シ、積集セル記事ヲ了ルニ於テ殊ニ価値アル時ト為ス。然レドモ午前七時頃ヨリ來訪セル人々ハ学校教員アリ、獸医アリ、養蚕家アリ、挿花師アリ、郡吏アリ、製糖家アリ、牧畜家アリテ、一人未ダ辞シ去ラザルニ早ク已ニ他ノ一人來リ、殆ンド応接ニ違アラザルモ、之ヲ、味爽、雨ヲ突ヒテ数里ヲ旅行シ湿衣ヲ更ムルニ及バズシテ二時間余ノ演説ヲ為シ、転ジテ懇親会場ニ趣ク等ノ寸暇ナキニ比スレバ、寔ニ充分ノ休憩時間ヲ与ヘラレタルノ思ヒアリ。

種子嶋家ヨリ、家人ヲ使トシテ系譜十巻ヲ送付ス。同家ノ系譜ハ、祖先以來、一家ニ影響アル天下ノ変遷ハ隨時編纂シテ九十余冊ニ及ビ、今尚、其編纂ヲ繼續スト云フ。

十月二十九日 月曜 雨 辰

此日モ汽船未ダ着嶋セズ。依テ午前九時三十分、再ビ郡役所ニ到リテ牧野郡長に談スル

所アリ。時二汽笛一声、三嶋丸来航ノ号音ニ接ス。屋久嶋二開航ハ今夜十一時ト定ムトナリ。依テ午後ヨリ行李ヲ整へ、種子島家へ、前日来ノ挨拶ト告別トヲ兼ネテ訪問ヲ為ス。然ルニ、日没以来、強雨頻リニ臻リ、擔滴飛瀑ヲ為シ、且、東北風較々強シ。夜十二時ニ至リテ明朝出帆ノ報告アリ。乃チ初メテ寢ニ就ク。

十月三十日 火曜 霽 巳

此日午前八時、三嶋丸ニ搭ジ、馭護郡屋久嶋ニ発ス。航路ハ右舷ニ馬毛嶋ヲ見、左舷ニ種子島ノ南頭遠ク洋中ニ蜿蜒タルヲ見ル。北風浪ヲ跳ラセテ船体ノ側面ヲ襲ヒ、為メニ動揺甚シク、船客概ネ困頓ノ状アリ。午前十一時三十分、屋久嶋宮之浦ニ投錨ス。

屋久嶋ハ周囲二十六里、面積三十二方里ニシテ、上下屋久両村ニ別レ、人口九千三百余人ヲ包容セリ。

本嶋ハ元暦二年、種子島氏ノ祖、平信基、北条時政ノ執奏ヲ以テ賜ヒタル十二嶋中ノ一二係リ、其後、嶋津氏、一ト度之ヲ褫ギ、再ビ之ヲ与フル等、領主ノ更迭一再ニアラス。而シテ其地勢ハ峻嶺峻峯、巍峩トシテ天霄ヲ摩シ、八十余坐ノ群山、參差トシテ、之ヲ遠望スレバ、其状、恰モ長短大小不整ナル大鋸ノ齒ヲ以テ天空ニ擬セントスルニ似タ

リ。部落ノ在ル所ハ其周囲ノ海岸幾部分ニ過ギズ。其内部ハ総テ群山重疊、人跡殆ンド絶へ、神代以来ノ古杉鬱茂トシテ生ジ、截面ノ今ニ在スルモノノ中、八疊敷以上ノモノモアリトナリ。屋久杉ノ名称世ニ知レ渡リタル所以、亦怪ムニ足ラザルナリ。如斯、満山林木叢生ノ所ナルニモ拘ラズ、嘗テ地租改正ノ際、嶋民ノ無智ナル、納租ノ負担ヲ免レンガ為メ故サラニ民有地ヲ官有地ト上申セシヨリ、家屋ノ経界ヲ為セル樹木モ官木トナリ、又、林中ニ各自ノ増植シタル樹木迄モ、亦皆官木ニ編入セラレ、今ハ森蔚タル大林ヲ目前ニ見ナガラ薪炭欠乏シテ、遠ク種子島ニ之ガ供給ヲ仰グニ至ル。愍然ノ状、実ニ云フニ堪ヘザルモノアリ。嶋民ハ概ネ漁業ヲ勤メ、鯉節干鯖ノ類、輸出ノ価格殆ンド十万円ニ及ベリ。而シテ農業ハ専ラ家ニ在ル婦女子ノ為スニ任セ、尿桶ヲ担フ如キハ男子ノ恥ト為スニ至ル。故ニ農業ノ幼稚ナルハ更ニ種子島ノ比ニ非ズ。然ルニ山間ニハ天然ノ山藍繁茂シ、其他、開墾スベキノ土地、亦、鮮シトセズ。嗚呼、南洋諸嶋、遺利ノ夥多ナル、豈ニ北海ノ比ナラムヤ。

午後十二時三十分、上陸。学校ヲ巡視シ、上屋久村役場ニ於テ、村会議員及ヒ村内ノ重立タル者数名ヲ集メテ民情ヲ諮ヒ、且、漁業農事ニ就キ告グル所アリ。午後三時四十分、

乗船ス。

本嶋学校ノ数、総テ十一。未ダ曾テ吏員ノ巡閲シタルコトアラス。又、農事ニ関シ、未ダ曾テ一ノ談話ヲ為シテ注意ヲ喚ビタルコトモナシ。而シテ、本嶋ノ周囲ヲ一巡シテ道路ノ難易、架橋ノ設計ヲ調査セシメタルコトモ亦、之ナキヲ以テ、隨行員中、学務、農業、土木等ノ主任ヲシテ、各六七日間、留リテ職務ニ服スベキ旨ヲ命ズ。同四時半、抜錨。同八時、種子島西ノ表ニ投錨。同夜十二時、再ビ抜錨、慶灣ニ開航ス。

十月三十一日 水曜 天氣 午

此日、午前九時、慶嶋ニ帰着ス。

余ガ本嶋視察ノ要概ヲ叙スレバ、教育ノ点ニ於テハ、思ヒシヨリモ進歩ノ情況ヲ認メタリ。蓋シ、種子島氏領嶋以来、元暦時代、帝都ノ文物ヲ輸入シテ、家屋ノ造構、言語、風俗ヨリ詠歌、挿花、礼式ノコトニ至ル迄、何物ニモ優美ノ一原素ヲ加味シ、尚武ノ点ヨリモ寧口支那の文学ノ奨励ヲ勤メタルニ由ルナルベシ。故ニ学問ハ大切ナリトノ觀念ハ概シテ該嶋民ノ脳裡ニ渗徹シ、教育ノ主旨目的、今昔同ジカラザルニモ拘ラズ、尋常小学ヨリ高等小学ニ進ミ更ニ中学の私立学校ニ入ラシムル等ノ階級アリテ、一意人材薰陶ノ主義ヲ履ミ、学業長進ノ線路ヲ広メツアルノ割合

二、之ガ卒業ノ結果ハ各自ノ家計上ニ如何ナル現象ヲ呈スベキカノ思想、或ハ闕如タルモノアルガ如シ。之ニ反シテ、農業ハ非常ノ低度ニ在リ。是、蓋シ、内地交通ノ便開ケズ、定期航海ノ運送業スラ其開始近々三、四年以前ノコトニ属スルヲ以テ、其不發達ナル固ヨリ怪ムニ足ラズト雖モ、水田ノ稻作ハ蒔田ト稱シテ、挿秧ヲ為サズ、漫ニ種籽ヲ撒布シテ除草サヘモ為サザル所少ナカラス。甘黍ノ如キモ、亦、近年ノ培養ニ係ルヲ以テ、上等地ニ甘藷又ハ大根ヲ植ヘ下等地ニ甘黍ヲ栽培スル等、大嶋ノ農業習慣ニ正反對ヲ相為セリ。而シテ近年ノ開墾ニ属スル畑地ヲ見レバ、松杉ノ根株ハ其存置スルノミナラズ、幹モ亦、地上凡三尺ヲ剩シテ截断シアルハ、恰モ北海道開拓地ニ入ルノ思ヒアリ。蓋シ根幹ヲ撤セザルハ土地余リアリテ精墾ニ違アラザルガ為メナリ。地上二三尺許ノ古幹ヲ存スルハ伐採ニ身ヲ屈スルノ勞ヲ惜ムガ為メナリ。伐採ノ樹木ハ売却スルノ価値ナキガ為メナリ。又、面積二三反ノ畑一面ニ芝生ヲ以テ充タサレツツアルハ、農家皆不相応ノ広地ヲ所有シ鋤犁ニ違アラザルト、肥料ノ必要ヲ知ラザルガ為メニ、耕作二三回ニ及ベバ土壤衰へ、為メニ、二三年間、作付ヲ停止シ、天然肥料ノ生ズルヲ待ツトニ在ルナリ。又、二年程前ノコトナリシガ、一百町ノ山林ヲ代価百五十円

ニテ売却シタル者アリシガ、今ハ専ラ桑畑ヲ拓キテ養蚕ニ従事セントシツツアル者アリ。大樹鬱然タル山林一町、金一円五十錢ナルヲ以テ見ルモ、鹿嶋県北海道ノ名アル、亦、事実ニ於テ争フ可ラザルモノナリ。農事ノ發達セザル、夫レ斯クノ如シ。故ニ、余ハ一村ニ到着スル毎ニ左ノ図解ヲ揭示シテ、前途達着スベキ目的ヲ示シ、米作及ビ甘黍ノ二種ニ就キ他ヲ類推シテ之ヲ説明シ、各自ノ生計ヲ饒カニシ各其家ヲ富マスハ、即チ日本帝國ノ富カラ増進スル所以ノモノニシテ、今ヤ我外征軍ハ攻ムレバ則チ取り戦ヘバ必ズ勝チ、日本帝國ノ武威ハ世界万邦ノ人ヲシテ驚殺セシメタリト雖モ、内ニ在ル我輩臣民ニシテ国家ノ富力ヲ増進スルニカラ用フルナクバ、陸海軍人ノ、一死、国ニ殉ジタルハ、空シク一朝ノ鍍金ニ化シ去リテ、国家未ダ富マズトノ地金ヲ露出スルニ至ルベシ。然ラバ、則チ、汝等何ヲ以テ同郷ナル外征軍人ガ殉国ノ忠魂ヲ弔ハント欲スルカ、等ノ激語ヲモ相交ヘ、勤メテ農業改良ノ必要ナル所以ヲ叙述セリ。又、教育上ノ演説ハ、郡村長又ハ教員等ノ求メニ由リ、是亦、図解ヲ示シテ、児童教育ニ二個ノ義務アリトノコトヲ以テシタリ。

医療法人観音会

屋久島尾之間診療所

内科・小児科・外科

〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間136-6

TEL 09974-7-3277 FAX 7-3272

医師 市地 春彦